



AA日本ニューズレター

NPO法人AA日本ゼネラルサービス (J S O)

No.147

東日本大震災による被災された皆さまのご健康を祈ります。

明日への希望、穏やかな日常に少しでもお手伝いができるように念じています

2005年、アメリカ南東部を襲った大型ハリケーンのとときの現地AAの様子を、あるメンバーが分かち合ってくれました。

ニューオーリンズを襲ったハリケーン・カトリーナのとときは、市の人口の大部分が避難しました。そして、避難施設を提供した街のAAグループのメンバーにより、ミーティングが開かれました。ニューオーリンズにいる人たちのために、ビッグブックや他のAA書籍が届きましたが、このことについて、早めに街に戻ってきた数人のメンバーのあいだで、やや問題になっていました。それは、たくさんの書籍が届いたものの、それを手にするメンバーも、それを保管するスペースもなかったからです。(街に戻ってきた人たちの多くが、家を失ったか大きなダメージを受けていました。)そのため、届けられた書籍は、避難した人たちがいる街へ転送しなければなりません。この経験から私たちは、AA書籍を送るときには、災害が起きた場所ではなく、AAメンバーのいる所へ届けることが大切だということ学びました。

救助隊が街に入り始めると、ニューオーリンズの数人のAAメンバーが地元のセントラルオフィスの資金を利用して、ホテルにミーティング会場を借りました。そのとき、ホテルで使用できる部屋はニーズが高く、費用も高かったのですが、ニューオーリンズにいる人なら誰でも参加できるよう、毎日ミーティングを開きました。この街で暮らすAAメンバーたちが共にミーティングを開くプロセスは、地域の一体性にとっても健康的に作用しました。このときニューオーリンズにいたほとんどが、救助隊や政府関係者、保険会社の社員でした。

もう一つの興味深い問題は、他の地域のグループやメンバーからの金銭的援助の申し入れでした。私たちの地域集会(ルイジアナ州を占める)は、ルイジアナ州以外からの金銭的援助を辞退することを決定しました。伝統7は、自分たちの内側で自立することを勧めていると理解したのです。資金不足によってルイジアナのAAが消滅してしまうのではないかとこの恐れというのは、根拠がないものでした。12番目のステップ活動を続けていくために必要なお金を、地域のグループやメンバーが献金してくれました。一体性は、金銭よりもはるかに重要なものです。また、付け加えておきますが、セントラルオフィスによっては、他の地域のグループやメンバーからの献金を受け入れており、このことをめぐって大きな議論になったこともありましたが、また、結構な額のお金が、何に使われたのか分からないままになってしまいました。

個人的な経験からいえば、ルイジアナのAAにとっては、祈りと継続的なコンタクト、そしてAA共同体の愛が一番のサポートになりました。たくさんのグループが、できるだけ早くミーティングを再開するようにしていました。しかしそれは大き

な試練でもありました。かつてミーティングが開かれていた場所の多くが破壊され、そこに集まることが不可能なほどの被害でした。再開できたグループの多くが、会場を他のグループと分かち合っていました。また、新しいグループを始めることに協力的なメンバーたちは、ミーティングの場所を探すために互いのネットワークをうまく活用していました。

だいぶ時間はかかりましたが、一人また一人と、ホームグループに帰ってきたメンバーを迎え入れる光景は忘れられません。日常の話から胸が詰まるような悲しい話まで、分かち合われた話はさまざまでしたが、深い感謝の思いがそこにはありました。それぞれのホームグループに戻ることができるなら、それは大きな意味を持つことでしょう。しかしそれが叶わないときには、新しいホームグループを始める手助けが必要不可欠だと思います。

常任理事会より全国のメンバーへ

1995年1月に起きた阪神淡路大震災、2007年7月の中越沖地震など、そして今年3月の東日本大震災と地震国であることの宿命は避けられないものかもしれません。

毎日の報道の中で心を痛めています。先の見えない不安は、これからさまざまな場面に影響を及ぼしてくる問題だと思います。

まだ、行方不明者が多い状況の中でも、復興に向けての作業が始まり、これから長い再建の道のりが予想されます。この中でアルコールの問題も必ず出てくることでしょう。AA(アルコホーリクス・アノニマス)がお手伝いできることがあれば全力で当たりたいと考えています。幸いなことに、現在仙台にある東北セントラルオフィスは、その機能を十分とはいえませんが、果たしています。J S Oでもなかなか情報が集まらない中、無事な知らせが届くと「ホッ!」と胸をなでおろす日が続きました。今では、だいぶミーティングも開催の情報が増えてきました。J S Oのホームページでご確認ください。

メンバーの皆さまにお願いをいたします。大きな災害に遭遇し、大変な状況のなかでこのAAプログラムが自分にどのような効果を発揮したか、また、苦しんでいる人へのメッセージをどのように展開したか、経験を持っている方はどうぞ活字による分かち合いをしてください。BOX 916への寄稿をお願いいたします。(1200文字くらいを目安によろしくお願いいたします)

原稿の寄稿先: 171-0014 豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル3F
AA日本ゼネラルサービス BOX 916 係り

FAX 03-3590-5419

box916@dol.hi-ho.ne.jp



第16回全国評議会を終えて

中四国地域：前期評議員 石井

2月11日～13日に開かれた第16回全国評議会もあっという間に過ぎていった3日間でした。

昨年、評議員代理（オブザーバー）として参加させていただいた評議会は、分科会が企画委員会、議事委員会、広報・病院施設委員会、出版委員会、財務委員会という5つに分かれての構成でした。

第15回全国評議会の審議の結果、それぞれ実りの多い議論にするために分科会数の見直しが提案され、今年からは第1分科会（議事・企画）、第2分科会（広報・病設）、第3分科会（出版・財務）ということが、昨年の全体会議の中で勧告となりました。

3つの分科会に集約されたことと、評議会事務局の調整で審議時間は1時間多くなりました。また、去年までの構成での各分科会の議長はそのまま反映されましたが、今年の副議長（来年の議長）は各分科会に一人ずつということになりました。

今年の年間を通してのテーマは「グループの良心」です。私に関わらせていただいた第2分科会（広報・病院施設委員会）には、去年もオブザーバーとして参加させてもらいました。今年も評議員、担当常任理事ともに、とても熱意にあふれていて中身の濃い議論になりました。

今年の活動方針として一人でも多くのメンバーの声を聞いて、勧告された決議に沿って執行をして行くことの大切さを確認しました。さらに来年度のテーマ「私の責任」も踏まえながら、自分自身がこの方針に沿っての活動を同時にしてゆく勇気を評議会からいただいたと思っています。

今年の評議会の大きな論点は評議員と常任理事会とのコミュニケーション不足ということでした。これまでの問題点を解決する一つのプランとして、今年から6月と10月に「評議会事務局、評議員、常任理事の合同会議」が開催されることになりました。各分科会の議長3名と評議会担当理事、事務局が集まって、評議会の勧告決議や報告事項などの進捗状況の報告確認をすること、そして次回評議会へ向け、評議会全般に関わる事項の話し合いをすることになりました。評議会開催のあり方や問題点の解決などを今後に反映させるという方針が良い方向へ向くことを願っています。

もう一つは評議会の中の提案で、西日本圏・東日本圏というそれぞれの圏内で、評議員が集まりを持つことになりました。今年、何回集まることができるか分かりませんが、大きな飛躍になるだろうと思いました。評議員の集まりという名目ですが、そこに理事の方が来てくれたら、一緒に話し合っていくとても良い機会になると思います。考えてみると本当に良い時期に評議員の役割をさせていただけたと、地域の仲間たちに感謝したいと思っています。

3日間に渡りとてもハードスケジュールで過酷なものさえ感じていた評議会ですが、全国から集まった評議員、A類常任理事、B類常任理事、J S Oスタッフ、そして裏方で一生懸命私たちのサポートしてくれた評議会事務局のみなさんに出会えたことを私は誇りに思います。

少しずつでもいいから、より良い評議会へ成長してゆくことを心から願うばかりです。



私の責任

関東甲信越地域前期評議員 木口

アルコール中毒のトクマサです！

2011年度前期評議員になりました。そして今年の2月、全国評議会に参加することができました。去年仲間から、評議員の役割をしてみないかと誘われ「えっ？私なんか？」と本気で思ってしまいました。しかし、地域集会で立候補表明の話しをした時は、やるからには決心し「責任を持って、本気でやります！」と誓いました。評議会の出発の朝も「私なんかが行く場所だろうか？」と少し弱気になりましたが、評議員に選出してくれた仲間たちのこと思いだし、堂々と胸を張って向かうことができました！

これまで私は自分の回復の中で、責任ということはしっかり決心し、祈ってから行動することでした。今私は、苦しんでいる仲間のために、AAのサービスのために本当の正直さの中で、行動することを心がけています。「今、苦しんでいる仲間のために行動する！」とは数年前には言えませんでした。自分のほうが飲んでしまうようなレベルだったので、なにか似合わなかったようです。今は自信を持って「今、苦しんでいる仲間の手助け、奉仕をしていきます！」と言えるようになりました。

2月、評議会へ堂々とした気持ちでやってきましたが、9年のソーバーの生き方の中で経験してきた環境や雰囲気(いろいろなセミナー、フェローシップ、ラウンドアップ)の中にある匂い、私の仲良い、いつも会っている仲間たちの匂いとは何か違う匂いを感じました。数人の知っている仲間もいましたが、ほとんどは会ったことのない、知らない人たちばかりでした。

でもAAは素晴らしいところで、評議会が終わる頃にはほとんどの仲間と知り合うことができ、中にはなんとなく、うまがあう仲間もできたりしました。まさか、こんなに評議会が楽しいものとは思いませんでした。そして自分の責任についても、述べ伝えていきたいと思っています。

評議会の仕組みや会議の方法が少しわかってきたので、発言をしてみたいと思いました。最初は、なんとなく気恥ずかしい気持ちが出てやめようかとも思ったのですが、自分の責任とステップを使い発言をすることができました。自分が思ったことや、仲間たちから委ねられた内容を正直に話すことができました。最初はドキドキしてやめておこうと思いましたが、勇気を出して話すことができたのは、スポンサーやたくさんのお世話になった仲間からいただいた、どのような場所でもステップを使うこのAAプログラムのおかげだと思いました。数十秒の間黙って逃げていたら楽だったのかもしれませんが、その瞬間瞬間にステップを使い続けることで正直な発言ができたように思います。いろいろな人たちの顔が思い出され、感謝の気持ちが胸いっぱい沸いてきました。自分の中で逃げることなく、責任が果たせたように感じるすることができました。

評議会の分科会は財務委員会の担当になりました。分科会の中で、お金が足りないことや、献金の呼びかけの内容が分かち合われた時、ここ数年の間で私が感じている一番大きな意見を出してみました。それは、現在AAの活動にお金が足りないのであれば、全メンバーが毎日10円でもいいので献金をしてみたら、お金の問題は解決するのではないのでしょうか。しかし、そうそう金、金と呼びかけるわけにもいきません。私は献金の意味が、最近では述べ伝えられていないような気がしていました。感謝の心、真の献心の気持ち、なにか良いことがあったり、今日一日飲酒欲求がなかったことへの感謝、毎日起きている奇跡

への感謝やみんなの無事を祈る気持ちが喜びとして献金に現れてくるのだと思います。このような姿勢が全メンバーに伝わって行けば、それぞれが行動することで「今、苦しんでいる仲間」が救われる霊的な場所、救われる環境が作られて行くのだと思います。もちろんそれは、日本のAAが大きく発展して行くことに繋がるでしょう。

このようなことを、「財務フォーラム・献金フォーラムを開催してほしい」という議題の分かち合いの中で、もっと本質の部分を考えなければならないこととして発言しました。

今年の評議会が一番話題になったのは常任理事と評議員とのコミュニケーション不足でした。経過をみると、あきらかにすべての問題の本質がこれだと、私でもよくわかりました。大切な仕事を成し遂げていくのは、当然一人ではできないことで、たくさんの人と一緒に動くわけですから、どうしても密接な連絡や他人への思いやりなどの心配りが必要だと思います。まわりの空気を読んだり、言葉に表したりさまざまなコミュニケーションをとりながらみんなで進むことが良い結果を生むのだと思います。良いことをやろうとしても、コミュニケーションが足りないとなにかうまく行かず、おもいよらぬ失敗につながったりします。私たち評議員と常任理事はAAの仲間とグループから信頼された本当のしもべでなければならないと思います。仲間たちや各グループから任せられ、委ねられた責任をしっかりと果たすことをモットーにしたいと考えています。

これを実行するために、しっかりとコミュニケーションを常に心がけて一年間を行動すること、自己中心にはなっていないか、自分勝手にはなっていないかを検証して、思いやりを持ち続けられコミュニケーションは必ずうまくいくでしょう。AAのサービス活動が元気になってゆくと思えました。グループとメンバーが一番力をもつボスです、評議員や常任理事はそのボスから信頼されたしもべにすぎません。それぞれの生き方の喜びを感謝して、AA共同体の中へお返しして行くプログラムの中で、仲間たちのサービス活動の手助けができるようみんなで一体性を持って進んで行きたいと思えます。

評議員になってからまだ3か月ですが、多くのサービスに関わっている仲間たちと知り合う機会をいただき、気が合う仲間もたくさんできました。日々楽しく過ごせることを本当にスポンサーや先人たち、そしてグループの仲間、地区の仲間、全国の仲間へ感謝しています。このパワーをいっぱいを使ってサービス（奉仕）を続けていきます。ありがとうございました。

評議会に思うこと

関東甲信越地域評議員 森

今年度第16回評議会は2月11日～13日に開かれました。その1ヵ月後の3月11日起きた東日本大震災は大きな被害が今も続いています。被災された方々の無事を祈り、心からお見舞いを申し上げます。

評議会の席順はランダム（無作為抽出）だったので、私の隣は仙台から来られた東北地域の評議員でした。その評議員は無事であることが確認できホッとしています。しかし、昨年9月中旬に参加した東北ラウンドアップでお世話になった仲間の中には、無事の確認が取れていない方もいるようです。ミーティング会場もまだ使えないところが多いと聞いていますが、仲間の力で徐々に増えているようです。

AAでは無償でいただいたものは、無償でお返しすると言われています。私はAAにつながりどれだけ幸せなのかと思うことがあります。大学卒業後、仕事も恋愛も全てうまくいって

ると思っていました。それが一杯の酒がもとで大きな問題を起こし、最終的には精神病院に入院することになってしまい、一度だけでなく何度も繰り返しました。極端かもしれませんが、お酒を初めて飲んだ時から、最後は死に向かっているかのように思えます。酒をあおった上で高速道路を運転し、街中での喧嘩はあたりまえ…こんなことが何回も起きました。

今、私が酒を一滴も飲まずに仕事もさせてもらい、他の全てのことも何とかできるようになった時、本当に幸せというものを実感し、プログラムへの感謝が心底から沸いてきました。

グループの代議員、地区委員と役割をさせていただき、セントラルオフィスの運営委員をやる機会も先人たちからいただきました。そして、地域委員会、セントラルオフィス運営委員会を通し、自分の地区以外のたくさんの仲間と交流が始まりました。首都圏以外の仲間たちはサービスにかかる時間も体力も、私の想像以上のエネルギーが必要なようです。その献身的な姿に頭が下がります。

昨年は日本の35周年、アメリカ・カナダの75周年という節目で、いろいろな思いから評議員の役割をやってみようという意欲と決意を持つことができました。しかし、暮れにセントラルオフィスの献金横領問題が発覚し、信じていたものの喪失からAAとの関わりに距離を置きたくなってしまいました。スポンサーや先人たちへ相談したところ、「良い時に評議員の役割がきましたね」という提案をもらいました。今思うと、ハイヤーパワーは必要な時期に必要なものを与えてくれるのだ、ということを実際に感じさせていただいたようです。

代議員のサービスをしている時には、評議会は手の届かないような所にあるように感じていましたが、決してそうではなくもっと身近なものだということがわかりました。まだどのようにと具体的な方策は出てきませんが、メンバーがもっと活用できるように、このプログラムが一人でも多くの苦しんでいる人に届くようにしたいと願っています。

3日間の評議会を通して、自分の1票の重さを感じ、任期中の活動の大切さ、精一杯メンバーと評議会の間を近いものにしてきたらと思うことができました。

今回の大震災と同じように、みんなで力を合わせ、まだ苦しんでいる人へAAプログラムが届くように、一人でも多くのアルコールが回復に向かうようにできたら良いと思います。

そして自分たちの経験を、一人ではどうしても乗り越えられなかった高く長い壁にチャレンジしたこと、仲間の力を信じてそれを乗り越えてきたことを述べ伝えて生きたいと思っています。

今年のテーマが「私の責任」に決まりました。評議員と常任理事とのコミュニケーションの再構築も始まります。明るい希望が感じられた評議会でした。ありがとうございます！

国際出版基金（国際協力献金）って???

1990年の第11回WSM(ワールドサービスミーティング)で参加国にこの基金への献金の協力が呼びかけられたのが国際出版基金の始まりです。

昨年はちょうど20年目に当たり、メキシコ市で開かれた第21回WSMでA.A.WS社の社長のフィリス氏によって20年間の各国からの継続した支援と協力に対して特に感謝の意が表明されました。

その時の報告書では、2002年から2009年までの8年間で25カ国から集まった基金のための献金額はほぼ98万USドル

でした。そして日本からも継続して毎年ニューヨークの GSO の WSM 事務局に送金されています。昨年も、GSO の国際デスク担当を通して、日本の AA の皆さまに JSO を介して丁寧な感謝の手紙が届いていることは前号の AA 日本ニューズレター No. 146 でお読みいただいた通りです。

集まった基金は最終的に A.A.WS 社の援助で、現在までに、70 言語を超えるビッグブックをはじめとする AA 評議会承認出版物がまだ資金的に自国で翻訳出版が出来ない数 10 カ国のアルコールクスに現在も引き続き AA のメッセージとして出版物が届けられています。

日本の AA も 1975 年に蒲田でグループが始まって 4 年後の 1979 年 8 月 1 日に A.A.WS 社からの援助で「ビッグブック」の日本語訳の初版が出版されて、世界の AA の暖かい愛に支えられて現在の日本の AA が存続し、この 36 年間に数知れない多くの仲間たちが回復と成長の道をたどっています。

日本では、1998 年の第 3 回全国評議会で、国際協力委員会が設置されて、同時に国際出版基金への献金のグループへの呼びかけが始まり、今年で 14 年目を迎えます。全国のグループやメンバーの方々のご理解とご協力によって毎年 AA の誕生日の 6 月 10 日前後を国際協力献金週間として今では定着し、すばらしい全体サービス活動の一環として存続していることにとっても感謝しています。

今年 3 月 11 日に発生した東日本の大震災で甚大な被害を受け、復興に向けて大変な状況にはありますが、同時に日本の AA として世界にも目を向けて新たに AA にやって来る未来の仲間たちにもメッセージを届け続ける大切さもあります。

ついては、今年も例年通り AA の誕生月の 6 月に各グループに国際協力献金のお願いをすることが 4 月の常任理事会でも合意されました。特にこの状況下ではありますが、できる仲間が出来る範囲でご協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

国際協力委員会 WSM 評議員 新村

郵便局振替口座

口座番号 00180-0-68876

加入者名 AA JSO

通信欄に 2011 国際協力献金 グループ名等ご記入のうえ 7 月末日までにご送金願います。

2011 年度第 9 回 AOSM

(アジア・オセアニア サービスミーティング)

テーマ：目的の単一性

開催国：インド、チャンディガール市

月・日：7 月 22～24 日

AOSM で聞いて欲しい問題などがありましたら、WSM 評議員の今井、新村 または JSO 国際担当の金沢さんまでご連絡下さい。締め切りは 6 月 30 日です。

はじめまして

JSO スタッフ 新井

今回新たに JSO 職員に採用されました新井です。アル中です。グループは関東甲信越地域湘南地区小田原グループです。自己紹介も兼ねて私と JSO との関わりについて書きたいと

思います。

まだ AA につながりたての頃、当時のスポンサーに JSO 所長を紹介していただきました。JSO では英語とパソコン関係のボランティアを募集していると聞き、私は英語はからっきしダメですがパソコンならなんとかお手伝いできると思い、日をあらためてうかがうことにしました。

日をあらためると、会計ソフトを開発した仲間がご病気で年度変わりの作業が滞っているとのことでした。触ったことのないソフトでしたが、その作業を引き受けました。当時は頃合いよく会社に行けずヒマを持って余っていましたので、この作業に集中することができ、ナントカ無事に動きました。そして、そのおかげで会社にも行けるようになりました。

次に引き受けたのは、ホームページの更新でした。当時は仕事をしていましたので自宅での作業になりました。次に代議員や BOX 916 管理用のデータベースを作成しました。この頃から JSO の OA 化を意識し始め、月 1 回程のペースで JSO にかが、いろいろな提案する余裕もできたように思います。そして、もちろん、これらも会社の仕事に生かすことができました。

私は JSO へのボランティアやその他 AA の活動を通して多くの経験をさせていただきました。但し、私には地区や地域でのサービス経験がありませんので、そこは一から勉強させていただきます。

まだ AA につながりたての頃、先行く仲間に使われた言葉が印象的です。「AA で学んだことを社会に。社会で学んだことを AA に。」

今度は、社会で学んだことを AA にお返しする番です。皆さんのお手伝いができることを楽しみにしています。至らぬ点が多々あるとは思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

さようなら

1998 年の秋から JSO へ勤めることになり、12 年あまりが経った。何もスキルのない自分がアルコールクス・アノニマスという共同体のサービスオフィスで仕事ができるのだろうか。不安の中のスタート、胃も心臓も痛くなるような日々だったことを思い出す。周りの人たちに支えられ、なんとかこれまで大過なく過ごせたことは本当に幸せなことだと思っている。ほかに芸のない染物職人が海外の AA を経験することができたってこと本当に奇跡である。どれほど感謝してもしきれないほどの恵みをいただいた。たくさん思い出とたくさんの友人も大切な宝物だ。しばらく前、いただいたものを返さなくてはとしきりに思っていた。でも、なんでもかんでも返すのではなく、いや返せないものだってあるし、むしろ返さない方がいいものだってあることに気がついた。先人たちの大きな広い心と優しさ愛情をたくさんいただき、新しくやって来た人々たちからもたくさんの愛をいただいた。今苦しんでいる人、そしてこれから苦しむかもしれない人々へ自分ができるメッセージ、意欲と、正直さと、開かれた心を持って穏やかな 24 時間を過ごして生きたいと思う。書き出せばきりがないので、最後に手短かに伝えたい。

「みなさま、どうもありがとうございました！」

野崎

編集・発行： NPO 法人 AA 日本ゼネラルサービス (JSO)

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.aajapan.org> jsj-10@fol.hi-ho.ne.jp

(月～金) 10:00～18:00 (土・日・祝) 休